

# リスペクトキャンペーン行動規範

## 1. リスペクト憲章の周知徹底（原点として行われるべき行動、周知活動）

公益財団法人日本アイスホッケー連盟（以下、本連盟）は下記の通り「リスペクト憲章」を定め、競技に係る全ての人々が各々の立場で「フェアプレー&リスペクト」を実践することを宣言しています。アイスホッケーに興味を持ち、これから始めようとしている子供たち、その保護者・ご家族等関係者の方々に対しても（競技へのファースト・コンタクトの貴重な機会を逸することが無いように）指導する立場の者がまず「リスペクト憲章」およびその精神をしっかりと伝え、そして自らこれを率先して実行することが求められています。各チームの代表者、指導者の皆様においては「チーム規約書」「入会説明書」「ハンドブック」などがあれば、その冒頭に必ず「リスペクト憲章」を記載し、チームに関わる全員に周知してください。

### 「リスペクト憲章」（第1条 競技に関わる者の心得）

#### （1）フェアプレー

フェアプレーの基本はルールをしっかりと知った上で、それを守ろうと努力することである。我々アイスホッケーに関わる全ての者は、競技規則はもとより、本連盟倫理規程や関連するガイドラインを守らなければならない。

#### （2）相手選手への敬意

相手チームの選手は、アイスホッケー競技を楽しむために必要な、同じアイスホッケーを愛する仲間たちである。その仲間に敬意をはらい、暴力をふるったり、怪我をさせたりするようなプレーは絶対にしてはならない。

#### （3）レフェリーへの敬意

レフェリーは、両チームが公平に試合ができることを委ねた人たちである。例えミスがあったとしても常に審判を信頼し、そのジャッジは尊重されなければならない。

#### （4）感謝と尊敬

我々はアイスホッケーに関わる多くの人々に支えられて、この競技を続けることができる。会場を用意してくれた人、試合を運営してくれた人、そして応援してくれた人に、いつも感謝と尊敬の気持ちを伝えなければならない。

※ なお、特に初心者のジュニア向けにリスペクト精神を周知するに当たっては、具体的事例等も表記し判りやすく表現されたツールも必要になります。本件は下記事例も参考に「小冊子」制作時（周知活動ご参照）に考慮すべき点として留意いたします。

## 2. 試合開催時における行動規範

本連盟主催大会（全日本アイスホッケー選手権等）における行動規範（例）を以下に提示します。本連

盟加盟団体はその主催大会において、施設、試合環境、時間的制約などを考慮した上で可能な範囲において本行動規範に従って、指導者、選手、ゲームオフィシャルおよび観客などに対しリスペクト精神の徹底をはかってください。

## 2-1 指導者：監督会議の実施（内容：リスペクト精神の徹底）

### （1）監督会議の実施

運営責任者は大会前に必ず監督会議を実施し、リスペクト・フェアプレー精神の徹底を図ります。

### （2）監督会議の参加者

監督会議には試合運営責任者、ゲームスーパーバイザー、レフェリースーパーバイザー、参加チームの監督、マネージャーが必ず出席するものとします。

### （3）確認事項（試合開催および進行等に関する事案と共に、以下の確認を行います）

- ・ 試合開催にあたって本連盟および参加者に求められる義務の確認（運営責任者より会議参加者へ「リスペクト憲章」の提示と併せ確認）
  - a) 本連盟は、試合が公正かつ安全に行われるための大会運営および競技に関する全ての権限・責任を有し、競技に関わる者は本連盟の定める規程と指示を遵守する。また本連盟は大会参加者が最高水準の行動と規律を保つよう監督し、全ての参加者は自らの行動と態度のみならず試合の安全性向上と振興のための責任と自覚を持たねばならない。
  - b) 大会参加者は、リンク上、会場内、移動行程、宿舎で適切に行動しなければならない。競技の利益を損なう行為、競技への不信を招く行為および不正行為を行ってはならない。
- ・ 監督の役割の確認（ゲームスーパーバイザーより両チームへ）

大会に参加するチームの選手やスタッフに必要な指示を行うのは監督の責務である。本連盟が定める規程に違反した場合並びに試合運営者、レフェリー・ラインズマン、相手チーム監督・選手へのリスペクト精神を欠いた行動・言動は、選手、スタッフと共に監督もその責任を負う。
- ・ レフェリー・ラインズマンへの対応についての確認（レフェリースーパーバイザーより両チームへ）

レフェリー・ラインズマンへのリスペクト精神の徹底を改めて求めると共に、後述、レフェリーの行動規範で示した試合中の対応についても確認を行う。また、直近の試合等でラフプレイなどの問題が発生している場合はその情報および対策を共有し再発を未然に防ぐ。

## 2-2 選手：試合前、試合中、試合後の行動

### （1）試合前、選手が行うべき基本行動

- ・ 選手整列時は静止し、スティックを動かす等の行為は厳に慎む。
- ・ 対戦相手の選手およびレフェリークルーと握手を行う際は、右手のグラブを外し行う。
- ・ 国家斉唱時は、選手およびレフェリークルーはヘルメットを取り国旗に向かい直立する。この時、ヘルメットは原則左腕で抱え持つ。（困難な場合は持つ位置を統一する）

## (2) 試合前の行動

- ・リンク入場後、観客に向け自陣中央にてベンチに向い整列し一礼、次いで後ろへ向き、整列一礼を行う。
- ・試合開始前は両チームがブルーラインに整列しスティックを掲げることで挨拶とする。またこの時、選手およびレフェリークルーはヘルメットを取らなくて良いが、試合前に特別にセレモニーが行われる場合、選手およびレフェリークルーはヘルメットを取りスピーカーに正対する。

## (3) 試合中のリスペクト意識

- ・レフェリーはルールに従い公平に競技ができるように努めている。選手はいかにエキサイトしようともレフェリーを信頼し、その判断を尊重するよう、特に監督・コーチ・ゲームキャプテンはその範となるべく常にリスペクト意識を保持する。

## (4) 試合後の行動

- ・選手はブルーライン上に整列し、ヘルメットを取り一礼を行う。その後、キャプテンはレフェリーサークルにて最後の挨拶および握手をレフェリークルーと行う。続いて、両チーム選手同士およびレフェリークルーと握手を行う。握手はアウェイチームからレフェリークルー、相手チームへと一列に移動しながら行い、次いでホームチームがレフェリークルーと握手する。監督・コーチはベンチにて互いに挨拶および握手を行う。(延長戦やリンクのトラブルなどにより試合が大幅に遅れている場合に限り、選手同士の握手を省略することができる)
- ・ベストプレイヤー等の表彰が行われる場合、選手はブルーライン上に整列し、ヘルメットを外し表彰者等に正対する。

## 2-3 試合会場におけるレフェリーへの敬意表明方法について(試合運営者の対応例)

### (1) 試合前のレフェリー紹介

- ・試合開始にあたり、両チーム選手の入場前にまずレフェリー・ラインズマン紹介を行う。
- ・アナウンスにてレフェリー、ラインズマンの順に「氏名」および「キャリア・資格」を紹介する。その際、大型ビジョン使用時には、顔写真の表示も併せて実施する。(世界選手権、国内ビッグイベント等のジャッジ経験はもとより、より身近な存在として感じられるような「プロフィール」の紹介を行っても構わない)
- ・紹介されたレフェリー・ラインズマンは一步前に進みヘルメットを取って観客(4方向)に挨拶を行う。
- ・その試合が節目(100試合目、500試合目等)にあたる場合、その場で特別表彰を行う。(試合運営者は記念品等を準備、授与することが望ましい)

### (2) 試合終了後の表彰

- ・本連盟主催の全国大会決勝(全日本選手権、アジアリーグファイナル等)および国際大会(決勝)終了後の表彰式では、最初にレフェリー・ラインズマン表彰を行い、記念品等を授与する。その折には再度、「氏名」および「キャリア」を紹介する。

## 3. レフェリー・ラインズマンに求められる行動規範

選手・指導者には対戦相手、観客そしてレフェリー・ラインズマンに対してのリスペクト精神が求められる

ますが、これと同様、レフェリー・ラインズマンにも

- ・選手・指導者、観客に対しリスペクト精神をもって接すること
- ・試合中においては選手・指導者との信頼関係を構築すべく努力すること

(試合進行の円滑化のため、反則を未然に防ぐための「選手への事前の声掛け」等もその手段となる)が求められます。また自らの技能向上に努めるのは勿論のこと、国際連盟(IF)主催大会(世界選手権等)の「(グローバルスタンダードとしての)判定基準」を常に注視、レフェリー委員会を通じ本連盟関係各位および国内レフェリー・ラインズマンに周知徹底することで「判定基準の統一」をはかることが求められます。

### 3-1. レフェリー・ラインズマンのジャッジ(対応方法)の統一と告知

試合中の微妙な判定につきチームへの説明を行う必要があるケースの確認(基準の統一)およびその際の説明場所・説明方法につきレフェリー委員会にて統一見解を示し、本連盟加盟団体に通達します。

### 3-2. 罰則規定の適用について

「2018-2022年度アイスホッケー公式国際競技規則」第116条:アビューズ・オブ・オフィシャル及び、第168条:アンスポーツマンライク・コンダクトの適用につき、レフェリー委員会にて判定基準の確認・適用の徹底をはかり、また試合前には運営責任者が監督会議等でその旨周知徹底します。